郡上の魅力を動画発信

郡上北高生が自主制作発表会

デジタルアーカイブを利用

映像資料などをデジタル化して保存、公開する「デジタルアーカイブ」の学習に力を入れている郡上北高校（郡上市白鳥町）で十五日、生徒たちが郡上の魅力を発信するために自主制作したプロモーション動画の発表会が開かれた。（中山道雄）

同校は昨年七月、岐阜市の岐阜女子大と高大連携協定を結び、久世均教授（デジタルアーカイブ研究所長）を講師に招いた情報デザインの授業を続けている。この日は、久世教授の指導を受けた二年生二十人が六班に分かれてそれぞれの動画を披露した。

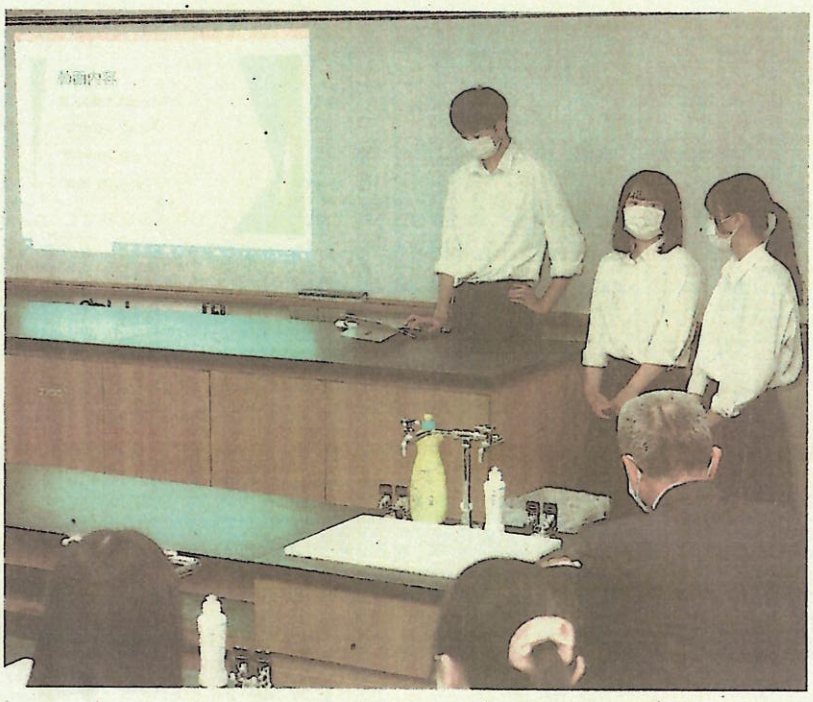
動画は岐阜女子大が構築した「郡上白山文化遺産デジタルアーカイブ」の映像を利用し、三～四分ほどでまとめられている。

「郡上が消えるまでに行ってほしい観光スポット」と題した作品では、ひるがの高原牧歌の里（高鷲町）、古今伝授の里フィールドミュージアム（大和町）、郡上八幡城（八幡町）などを軽快なBGMに合わせて紹介。郡上の豊かな自然と伝統文化にも触れ、最後に「あなたはどこへ行きたいですか？」と問いかけた。

生徒たちは観光客や移住者の誘致を目指し、自分たちが自信を持って打ち出せる郡上の魅力を探った。「郡上の温泉7選」は、代表的な入浴施設の特徴を分かりやすく発信。「郡上の一日デート」と題し、時間入りのモデルコースを提案した班もあった。

動画の上映後、郡上ケーブルテレビの稲葉秀章代表取締役や川地晃正校長ら四人が講評に立った。「キャッチフレーズにインパクトがある」「音楽と映像がよく合っている」と評価する声が多い一方で、「もっと高校生らしい視点がほしい」という注文も聞かれた。

郡上北高は二〇二三年度から、学校設定科目「デジタルアーカイブ」を設置する予定。久世教授は「デジタルアーカイブの動きは企業でも広がっており、専門的な知識と技能を持つ人材が求められている。郡上北高の試みが全国の高校に波及することを期待したい」と話していた。



デジタルアーカイブを利用して制作した動画を発表する生徒たち＝郡上市の郡上北高で